



2024年8月30日

各位

会社名 株式会社RS Technologies  
代表者名 代表取締役社長 方 永義  
コード番号 3445 東証プライム市場  
問合せ先 経営企画室長 田淵 勝也  
電話 03-5709-7685

## 2024年12月期第2四半期 決算説明会動画及び書き起こし公開のお知らせ

当社は、2024年8月9日に開催しました2024年12月期第2四半期決算説明会に関するアーカイブ動画及び書き起こしを下記のとおり公開いたしました。

本説明会では、取締役上席執行役員 遠藤智から、2024年12月期第2四半期決算概況、中期経営計画進捗状況等についてご説明した後、お寄せいただいたご質問にお答えいたしました。株主・投資家の皆様におかれましては、ぜひご覧いただけますと幸いです。

### 記

#### 1. 決算説明会概要

開催日時：2024年8月21日

説明者：取締役上席執行役員 遠藤 智  
執行役員 齋藤 進

#### 2. 資料格納先

アーカイブ動画：

[https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec\\_202408\\_m03s](https://www.irmovie.jp/nir2/?conts=rs-tec_202408_m03s)

決算説明資料：

<https://contents.xj->

[storage.jp/xcontents/AS02916/bc10029b/04c3/4097/a8c6/ddd37b6757e3/140120240809569355.pdf](https://storage.jp/xcontents/AS02916/bc10029b/04c3/4097/a8c6/ddd37b6757e3/140120240809569355.pdf)

以上

2024年12月期 第2四半期

# 決算説明資料



株式会社 RS Technologies プライム市場 3445  
2024年8月9日

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

遠藤：

本日は当社の2024年12月期第2四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

取締役上席執行役員の遠藤と申します。

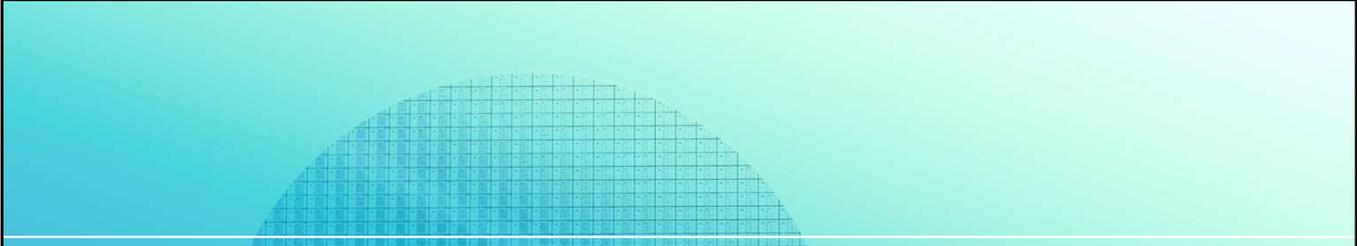
早速ですが説明を始めさせていただきます。

## 目次

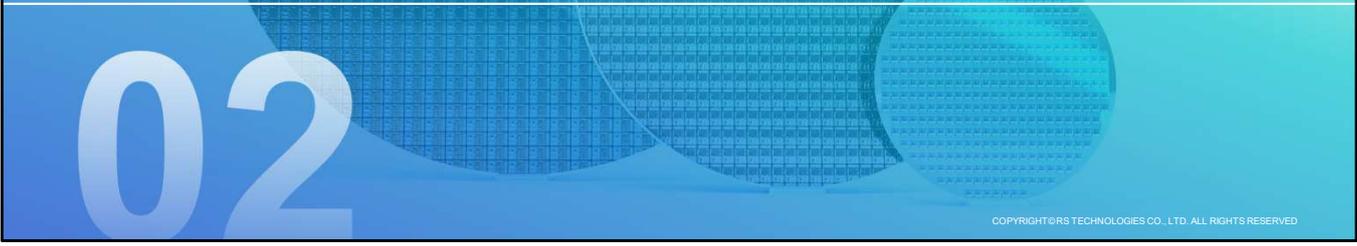
01	会社概要	.....	P.03
02	決算概要	.....	P.12
03	中期経営計画 (24年～26年)	.....	P.17
04	新規事業 (LEシステム)	.....	P.26
05	Appendix	.....	P.31

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

本日は、12ページの決算概要からご説明をいたします。  
会社概要、事業内容につきましては、前回の2023年12月期通期決算説明会の動画や書き起こしをご参照いただけますと幸いです。



# 2024年12月期 第2四半期 決算概要



02

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

それでは説明を始めます。

## 2024年12月期第2四半期決算概況



・売上高は、前年同期比15.0%増の30,068百万円、営業利益は、前年同期比4.8%減の6,082百万円となった

(百万円)

	2023年12月期 第2四半期	2024年12月期 第2四半期	前年同期比	差額
売上高	26,126	30,068	+15.0%	+3,942
営業利益	6,395	6,082	△4.8%	△313
営業利益率	24.4%	20.2%		△4.2pt
経常利益	7,741	7,896	+2.0%	+155
経常利益率	29.6%	26.2%		△3.4pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,722	3,833	+2.9%	+111
一株当たり当期純利益	141.64円	145.42円	+2.6%	+3.78円

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

2024年12月期 第2四半期の決算の概況です。

業績は前年同期比で、売上高15%増の300億6800万円、営業利益4.8%減の60億8200万円、経常利益2%増の78億9600万円、親会社株主に帰属する当期純利益2.9%増の38億3300万円となりました。

## 2024年第2四半期セグメント動向



- ・ウエーハ再生事業は、新設の半導体工場からの受注も始まり、前年同期比増収増益で推移
- ・プライムウエーハ事業は、中国市況の減速もあり前年同期比減収減益なるも足許は大幅に回復
- ・半導体関連装置・部材等事業は、第1四半期の大口案件の影響もあり前年同期比増収

(百万円)

	ウエーハ再生事業		プライムウエーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
売上高	11,035	+14.1%	10,111	△1.1%	9,408	+37.7%	△486	—	30,068	+15.0%
営業利益	4,232	+17.3%	2,206	△15.4%	454	△25.4%	△810	—	6,082	△4.8%
営業利益率	38.3%	+1.1pt	21.8%	△3.6pt	4.8%	△4.1pt	—	—	20.2%	△4.2pt

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

上期のセグメントごとの動向です。

ウエーハ再生事業は売上高、営業利益ともに堅調に推移しております。各地で新設された半導体製造工場からのテストウエーハの受注も始まっております。下期からは、設備投資効果も寄与してまいりますので、さらなる成長を目指せると考えております。

プライムウエーハ事業は、2023年からの中国市況減速の影響が続き、前年同期比はマイナスとなっておりますが、2024年の足元の業績としては、売上高、営業利益ともに増加傾向にございます。期初から想定しております2024年下期からの市況回復に向けて、プラスの動きが見えてきております。

半導体関連装置・部材等事業は、第1四半期の大口スポット案件の影響もあり、大幅増収となっております。営業利益に関しては、まだ前年には到達していませんが、確実に回復のトレンドに入ってきていると見ております。

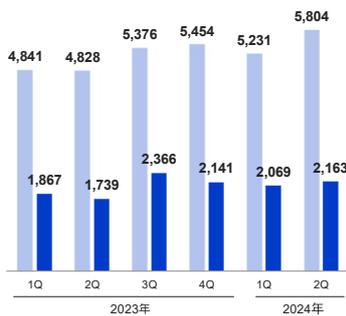
## 2024年12月期 第2四半期 セグメント別動向 四半期実績グラフ



- ウェーハ再生事業は、2024年第1四半期と比較し、単価が上昇。営業利益率は37.2%
- プライムウェーハ事業は、中国半導体市況回復の影響もあり、出荷数量が顕著に増加。営業利益率は24.5%
- 半導体関連装置・部材等事業は、商社機能の超音波検査装置販売が好調に推移。営業利益率は9.4%

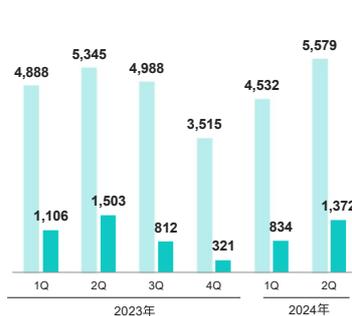
### ウェーハ再生事業

売上高 営業利益 (百万円)



### プライムウェーハ事業

売上高 営業利益 (百万円)



### 半導体関連装置・部材等事業

売上高 営業利益 (百万円)



COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

セグメント別の、四半期実績グラフでございます。

第2四半期のウェーハ再生事業は、引き続き高収益体質を維持できています。毎年、第2四半期は日本と台湾工場にて定期メンテナンスを実施しているため、各四半期より営業利益率が低下していますが、計画どおりの推移となっております。

プライムウェーハ事業では、中国半導体市況回復の兆しが見えてきており、第1四半期比では増収増益となりました。出荷数量は、需要増加を背景に、8インチを中心に全てのサイズで伸長いたしました。

半導体関連装置・部材等事業では、商社機能にて超音波検査装置販売の売上高が好調に推移いたしました。

DGテクノロジーズは、半導体市況の回復により、収支が改善傾向となっております。

## 貸借対照表



・純資産は、前年同期比146億円増の1,300億円(前年1,154億円)となった

(百万円)

■ 連結貸借対照表	2023年12月期	2024年12月期 第2四半期
流動資産	96,409	104,605
現金及び預金	70,758	77,802
受取手形及び売掛金	12,673	17,107
商品及び製品	6,507	3,557
固定資産	44,256	50,841
有形固定資産	35,326	41,139
無形固定資産	266	277
投資その他資産	8,663	9,424
資産合計	140,666	155,446
流動負債	18,265	18,275
支払手形及び買掛金	5,174	6,265
有利子負債	3,355	3,625
固定負債	6,973	7,122
長期借入金	2,092	1,561
負債合計	25,238	25,397
純資産	115,428	130,049
負債・純資産合計	140,666	155,446

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

貸借対照表です。  
純資産は、前年 期末比146億円増の1,300億円となっております。

# 中期経営計画

# 03

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

続きまして、中期経営計画の進捗についてご説明いたします。

## 中期経営計画(2024-2026)の概要 (ベースプラン)



- ◆2024年上期は半導体市況の停滞感が強い一方、下期より回復基調に動くこととみており売上高は2023年を上回る見通し
- ・ウェーハ再生事業は、国内、台湾、中国の3拠点で引き続き継続的な設備投資を実施し、生産能力増強を図る
- ・プライムウェーハ事業は、中国における8インチ及び12インチでのシェア拡大に向けた継続した設備投資を実施
- ・半導体関連装置・部材事業は、新市場開拓や新規顧客獲得に向けた営業活動を実施

### ベースプラン\*1

\*1: 既存3事業(再生ウェーハ事業、プライムウェーハ事業、半導体装置関連・部材事業)における中期経営計画

(百万円)	2023年 12月期 (実績)	2024年 12月期計画	2025年 12月期計画	2026年 12月期計画
売上高	51,893	54,900	59,300	64,100
成長率		106%	108%	108%
営業利益	11,894	14,000	15,330	16,830
営業利益率	22.9%	25.5%	25.9%	26.3%
経常利益	14,921	15,400	16,730	18,230
経常利益率	28.8%	28.1%	28.2%	28.4%
当期純利益	7,703	7,600	8,200	8,800

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

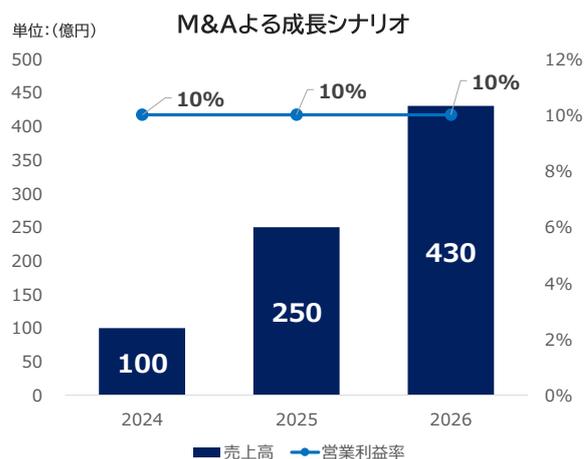
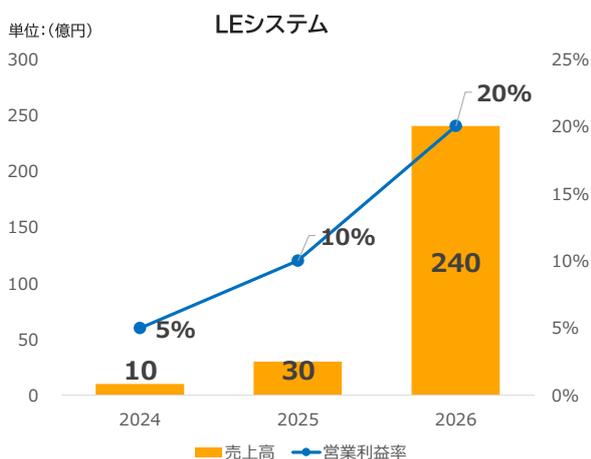
第2四半期は、短信にて公開している上期の業績予想を売上高13.4%増、経常利益8.1%増、中間純利益3.5%増で着地いたしました。  
売上高増加は主に第1四半期に、半導体関連装置・部材等事業にて、バルクセールの大口径案件獲得の影響によるものでございます。

全体として、期初から下期偏重を想定しておりますので、今のところ営業利益に関しましても大きなぶれはないと見ております。  
半導体市況回復と言われている下期には、さらなる成長をとげられるよう取り組んでまいります。

## 中期経営計画(2024-2026)の概要 (アップサイドプラン-目標値) 1/2



- ◆前頁「ベースプラン」に加え、LEシステム及びM&A実施による成長を見込んだ「アップサイドプラン」も目標値として設定
- ・LEシステムは、バナジウムレドックスフロー電池最大市場である中国に進出。売上高240億円、営業利益率20%を目標設定
- ・M&Aを通して3年で約430億円規模の売上高を達成し、事業拡大を加速させる



COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

アップサイドプランの目標値到達に向けては、現在一丸となって取り組んでいるところでございます。

バナジウムレドックスフロー電池を用いた再生可能エネルギー事業、LEシステムでは、すでに受注を獲得し、製造を開始しております。  
 その他にも引き合い、交渉中の案件もございますので、計画達成に向けて、邁進してまいります。  
 また2026年計画の売上高240億円の達成に向けては、生産キャパ拡大のための投資が必要であると考えております。  
 投資の詳細については、社内で検討中の段階でございますので、決定次第開示をさせていただきます。

M&Aに関しては、ヘリオス テクノホールディング株式会社のTOBは不成立となりましたが、引き続き案件開拓、パイプラインの精査など、中期経営計画達成に向けて動いているところでございます。

## 設備投資計画:ウェーハ再生事業



- 世界の半導体需要が拡大する中、日本・台湾での増産、及び、中国山東省において量産中
- 旺盛な需要に対応すべく、2026年までに月産89万枚超の生産能力を確立予定

日本

総投資額 **30億円**

2024年度	2025年度	2026年度
2億円	13億円	15億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充及び微細化対応
- 2024~2026年:月産+5万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
31万枚	32万枚	34万枚	36万枚

台湾

総投資額 **60億円**

2024年度	2025年度	2026年度
10億円	15億円	35億円

- 12インチ再生ウェーハの生産能力拡充及び微細化対応
- 2024~2026年:月産+10万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
23万枚	26万枚	28万枚	33万枚

中国

総投資額 **61億円**

2024年度	2025年度	2026年度
1億円	30億円	30億円

- 12インチ再生ウェーハ生産能力拡充
- 2024~2026年:月産+15万枚能力増

■ 12インチ再生ウェーハ生産能力(月産)

2023年	2024年	2025年	2026年
5万枚	5万枚	15万枚	20万枚

設備投資計画において、現在は想定どおり進捗しております。  
日本、台湾の増産投資効果は、第3四半期から業績に寄与してくる見込みでございます。

## 設備投資計画:プライムウェーハ事業



- 8インチプライムウェーハは、2024～2026年の間に月産18万枚から28万枚まで増産を予定
- 12インチプライムウェーハは、2024～2026年の間に月産6万枚から21万枚まで増産を予定

### 中国 8インチ

- 安定した量産体制の構築、生産効率の向上を目指す

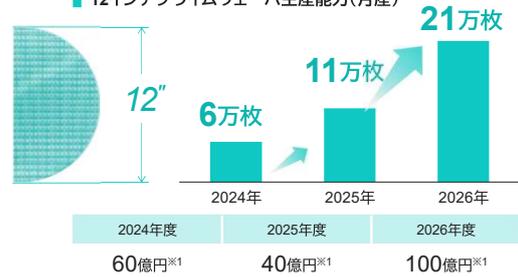
■ 8インチプライムウェーハ生産能力(月産)



### 中国 12インチ

- 12インチプライムウェーハの生産能力増強を実施

■ 12インチプライムウェーハ生産能力(月産)



※1 12インチ事業は持分法適用会社からの投資となります。

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

プライムウェーハ事業における設備投資計画についてです。  
8インチの18万枚への増産キャパアップは、すでに準備が整っており、この第2四半期の生産枚数にも寄与いたしました。

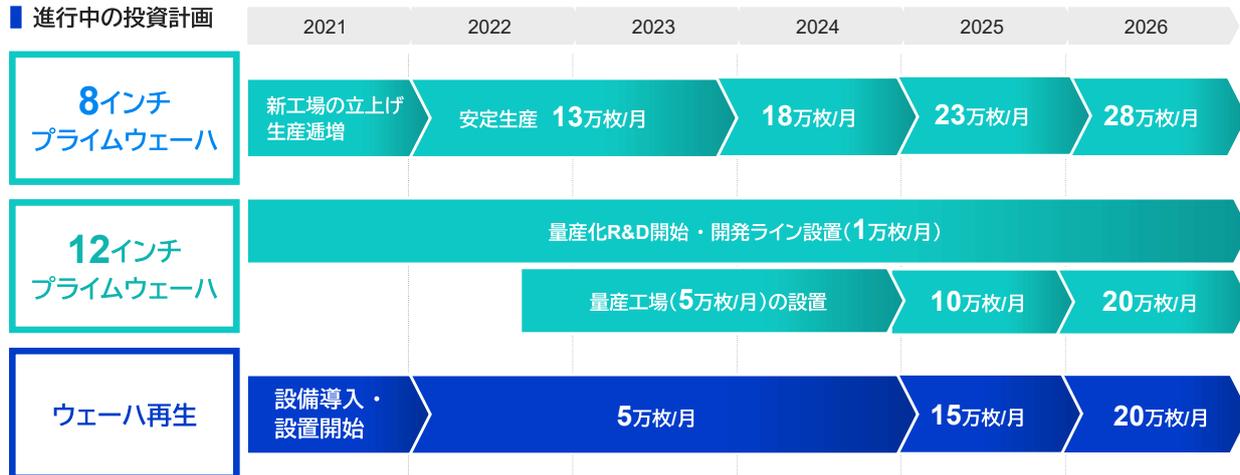
一方で、12インチは、中国国内での半導体市況の状況を観察しながら進めている状況でございます。  
今後中国は半導体内製化に向けた動きが強くなる可能性が十分あると見ておりますが、現段階で大きな動きが出ているわけではございません。  
市況の流れが変化する際に、需要をしっかりと取り込みシェアを獲得するために現在は、技術力の向上や、資金力の維持などで準備をしている段階でございます。

## 中国投資計画(スケジュール)



- ・8インチプライムウェーハは月産13万枚から18万枚への増産
- ・12インチプライムウェーハは月産5万枚の量産ラインを設置、高品質化・安定生産を早期に目指す
- ・再生ウェーハ事業は月産5万枚の量産を継続

### ■ 進行中の投資計画



COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO.,LTD. ALL RIGHTS RESERVED

投資計画について、当初の計画からの変更は現在はありません。

## ウェーハ再生事業の需要先: 12インチ半導体“新”工場

- 世界市場では、中欧米日等で12インチ半導体新工場が建設中
- 当社は、日本、台湾及び中国への設備投資により、新たな再生ウェーハ需要へ対応



ウェーハ再生事業のお客様となる半導体新工場からの受注もすでに入ってきております。新工場設立時には、テスト稼働や立ち上げ用途としてテストウェーハが使用されますので、月によって波はありますが、工場の本格稼働前から再生ウェーハの受注が入ってまいります。

設備投資により生産キャパを拡大し、こういった需要を取り込んでまいります。

## 地域戦略 ディカップリングに左右されない地域戦略

日本・北米・欧州

三本木工場(日本旗艦工場)が北米、欧州、日本等を中心にカバー

中国

現時点でプライムウェーハ  
は中国国内を中心に販売

台湾

ファウンドリーの集積地である  
台湾地域内は台湾工場でカバー

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

ディカップリング戦略も引き続き行っており、仮に米中摩擦が深刻化した場合でも、当社事業およびお客様への影響を最小限にできる体制を構築しております。

以上で私からの説明を終了いたします。ご清聴いただきありがとうございました。

## 【質疑応答】

Q1：ウェーハ再生事業の御社の競争力のポイントは何でしょうか？（決算説明資料 P40）

遠藤：当社の競争力、他社と比べての強みとして、1つ目に営業力があげられます。特に海外のお客様に対して、競合他社は代理店を介した営業を行っているのに対し、当社は直接営業を行い、お客様のニーズを直接取り込んで、フィードバックをしています。

2つ目は、技術的な部分においての再生回数があげられます。お客様がリサイクルできる回数が他社より多いことが当社のプロセスの特徴です。当社は、いかにシリコンウェーハにダメージを与えずに加工するかに重点を置き、各プロセスを行っています。

3つ目は、金属不純物の中でも問題視される元素に銅がありますが、当社独自の技術ではその銅をきれいに洗浄できるため、お客様にきれいな状態でウェーハをご使用いただけることがあげられます。

以上3点が、他社と差別化を図っているポイントになります。

Q2：ウェーハ再生事業における競合相手は何社ほどありますか？（決算説明資料 P41）

遠藤：ウェーハ再生事業の主な競合となる企業は、日本に2社ほど、台湾には3社ほどあります。

Q3：第1四半期比で、ウェーハ再生事業の営業利益率が2.3%低下した要因を教えてください。（決算説明資料 P15）

遠藤：主な要因は、第2四半期に日本及び台湾工場で、定期的な大規模メンテナンスを実施した影響です。昨年同様、営業利益率は若干の低下がありますが、計画どおりの推移です。

Q4：ウェーハ再生事業の第3四半期の足元の状況について教えてください。

遠藤：再生ウェーハの市場、ニーズは第2四半期も好調でしたが、第3四半期も引き続き好調となると予想しています。足元では、半導体市況が回復し、新たに設立された日本国内や海外の半導体工場からの需要がすでに当社にも寄せられてきています。そのような需要も後押しし、第3四半期も好調に推移するのではないかと予想しています。

Q5：ウェーハ再生事業の利益率は上昇する見込みなのでしょうか？

遠藤：もともと利益率としては高い水準にあると考えていますので、基本的にはこちらを維持していきたいと思っています。

Q6：再生ウェーハ、プライムウェーハについて、シリコンではない化合物半導体に対する対応を教えてください。

遠藤：化合物半導体への取り組みについて、もちろん同じような加工をする世界ですので、状況をウォッチしています。「打って出たほうが良い」というタイミングでは、例えば SiC（シリコンカーバイド）や化合物半導体などへの取り組みも進めていきたいと思っています。しかし、現時点では具体的な計画にはなっていません。将来的に需要が高まれば、具体的に考えていこうと思っています。

Q7：プライムウェーハ事業に関して、中国の足元の需要改善の背景を補足してください。

遠藤：当社の現在の主力である 8 インチパワー半導体は、主に EV、車載、民生品、工業製品の半導体に使用されます。そういったものの中国での需要増が、当社の業績にも影響している状況です。

Q8：中国の 8 インチプライムウェーハの市場において、EV 関連向け需要が好調とのことでしたが、昨今の市場と比べると違和感があります。今でも、中国国内の車載用半導体の生産は増加基調なのでしょうか？

遠藤：全体の市況として、報道の中ではそのようなお話もあるものの、EV 向け、車載向けの中にも様々な種類があり、当社が中国で作っている車載向けの製品に関しての需要は高まっており、業績にも反映されています。したがって、当社が提供する製品に対する需要は高まっていると言えます。

Q9：大手同業他社で 8 インチプライムウェーハの回復が遅れている中で、御社の売上は回復しています。中国で御社の 8 インチプライムウェーハのシェアが上がっていると考えてよいのか教えてください。

遠藤：他社の 8 インチプライムウェーハが落ち込んでいる理由は申し上げませんが、当社がターゲットとしているのは中国市場です。中国市場の中でも、主にパワー半導体の民生品や工業品、車載関係や IGBT などが主な用途になっていくだろうと思っています。その部分では、中国市場が活発になってきていることが当社の売上・利益増加を後押ししていると考えています。

Q10：中国の 12 インチプライムウェーハ市場の状況について、もう少し詳しく教えてください。同業他社は、赤字が続いて苦戦しているところもあるようですが、中期的な見方も含めて教えてください。

遠藤：12 インチプライムウェーハの中国市場は、これから確実に大きくなっていくと考えています。ただし、現時点ではまだそこまでの成長は見ておらず、プライムウェーハは他

社を含めて先行投資を行っていることもあり、キャパが余っている状況になっています。他社の投資額はおそらく大きく、そのような市況の中で非常に苦戦しているかと思います。当社は、需要に合ったかたちでの設備投資を進めており、現時点ではお客様の認定作業やニーズに応えられる技術力の蓄積を重点的に進めています。設備投資を市況に合わせて行っているところが他社とは異なっています。

したがって、他社に見られるような大規模なマイナスは、当社では抑えられている状況だと推測しています。今後は、間違いなく中国の 12 インチプライムウェーハの市場も拡大していくため、それを見極めてタイミングを合わせて設備投資を行い、量産できる体制を実施していこうと考えています。

Q11：プライムウェーハ事業の営業利益率の改善要因について教えてください。（決算説明資料 P15）

遠藤：プライムウェーハ事業の営業利益率改善について、要因はいくつもありますが、主に材料の調達についてコストダウンができたことが挙げられます。加えて、生産効率を上げて製造コストを下げる取り組みが実を結びました。

Q12：中国の 12 インチプライムウェーハ市場が本格的に立ち上がる時期はいつ頃でしょうか？

遠藤：予想が難しいところではありますが、今のところ、3年から5年以内を1つの目安にして考えています。3年後ぐらいには、量産化が進むのではないかと考えています。

Q13：中国の 12 インチプライムウェーハ市場の立ち上がり時期が 2027 年から 2029 年頃だとすると、それまでどのような事業環境が想定されるのでしょうか？

遠藤：2027 年を1つの目安とお話ししましたが、そこまでの間でも、中国の 12 インチプライムウェーハ市場は成長していくと考えています。成長に合わせた投資と、大規模に成長するタイミングできちんと獲得できる体制作りを進めていこうと考えています。

2027 年までについては、足元の需要を取り込むことに加えて、将来的に量産化が大規模に行われる際に備えて、お客様との連携を進めていきたいと考えています。

Q14：半導体製造装置・部材等事業の現状と、今後の見通しを詳しく教えてください。

遠藤：商社機能の半導体関連装置については、超音波映像装置・検査装置の需要が引き続き堅調に推移すると思っています。世界各地で、半導体関連の設備投資が進んでいますので、需要は今年、来年と継続すると思っています。

今年、エッチング装置の消耗部材を製造販売する DG Technologies も改善傾向が見られており、この傾向は今後も続くことを期待と想定をしています。

Q15：DG Technologies について、回復のインパクトとなるのはエッチング装置市況の回復かと思います。こちらの回復はどのタイミングになるのか教えてください。

遠藤：おっしゃるとおり、DG Technologies の回復には、エッチング装置の市況が影響します。報道されているとおり、エッチング装置をはじめとした半導体装置は現在回復基調となっています。

当社に対しての需要も、以前のレベルまで回復しつつあります。第2四半期の業績にも少し効果が出てきており、今年度中に回復していくと考えています。

Q16：LE システムの状況はいかがでしょうか？ 可能であれば、どのような案件が入っているのか、詳細を教えてください。

遠藤：今年、北米向け発電所用蓄電池のバナジウム電解液の製造と出荷が始まっています。

Q17：LE システムについて、ターゲットとしている市場とポテンシャルを教えてください。また、バナジウムレドックスフロー電池の特徴や、なぜこちらが選ばれているのかを、可能であれば教えてください。(決算説明資料 P28、29)

遠藤：主に中国と北米で先行して需要が拡大しています。基本的には、中国と北米向けの需要の取り込みが、当面の受注につながっていくと考えています。

バナジウムレドックスフロー電池の特徴については、基本的には大規模な発電所の蓄電池としての位置づけになります。最近、リチウムイオンバッテリーの事故などが報道されています。バナジウムレドックスフロー電池の1つ目の特徴として、まずは安全であること、火災につながるような事故が起きないことが挙げられます。

2つ目の特徴は、大規模向けに展開しやすく、大規模な発電所向け案件に非常に向いています。

3つ目の特徴は、劣化しないことです。リチウムイオンバッテリーは10年経つと何割か劣化すると言われていますが、バナジウムレドックスフロー電池は基本的には10年、20年経っても性能を維持できます。

このような特徴を踏まえて、発電所向けの蓄電池の需要が世界各地で高まっています。現在は中国、北米が先行していますが、いずれは日本での需要も高まってくると思われます。

Q18：中期経営計画の進捗、達成への確度について教えてください。(決算説明資料 P18)

齋藤：中期経営計画(2024-2026)ベースプランについては、2024年は計画どおり順調に進んでいると思っています。ベースプランについては、引き続き計画どおり進めていきます。アップサイドプランについては、今後M&AやLEシステムなどを成長させて、達成できるよう進めていきます。